

大学の世界展開力強化事業 構想概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅱ)SENDプログラム)

「開かれたASEAN+6」による日本再発見－SENDを核とした国際連携人材育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

グローバル化と混迷の時代に、外部の視点から日本社会を見直し、日本を再発見するプロセスを経験することで、新たな視角から、課題解決への提案を、説得力を持って世界の人々に発信し、共に実践できるアジアトップリーダーを養成する。

【構想の概要】

ASEAN諸国に東アジア、南アジア、オセアニアを加えた地域を「ASEAN+6」と位置付け、域内およびいくつかの欧米圏の大学・研究機関でコンソーシアムを形成し、連携して総合的なアジア研究を創出し教育に活かす「アジア研究国際連携大学院プログラム」を構築する。学生は、そのプログラムで基本的な知識を習得し、SENDプログラムによって、世界の様々な現場で実践的な経験を積むことで、現地の人々と共に課題解決に挑むことのできる実践的知性を備えた人材に育成される。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

① 国際コンソーシアムの形成

域内外の大学・研究機関で「アジア研究国際コンソーシアム」を形成し、各種のプログラムによる学生の派遣・受入を行う。

② 教育の質の保証に向けた取組

単位の相互認定や成績管理のため、主にASEAN Credit Transfer System : ACTSを用いた単位の互換を基本とするが、ACTSの参考となった欧州の単位互換システムであるECTSとの比較検討を踏まえ、特に学位授与に至る連結方式と問題点を探るため、ハイデルベルク大学(ドイツ)との学生交流も実施する。

〈国際コンソーシアム結成、2011年、ソウル大学にて〉



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈ベトナムの学校訪問、2012年、ハノイ〉



① 交流プログラムの内容

主に学部生が、現地の大学生・高校生に短期集中形式で日本語と日本の社会と文化について教える「短期SENDプログラム」、主に大学院生が、専門的な知識に基づき、原則として1学期以上の期間、相手大学、現地の学校、企業等で日本語や日本の社会と文化についての教育に携わる「長期SENDプログラム」を実施する。

② 現在の準備状況

SENDプログラムでの派遣を予定している大学とは、すでに語学研修などの交流実績がある。これに日本語等の教育体験を加える具体的なプログラムについて、打合せを進めている。また、「アジアと日本の社会と文化」に関する基礎的な知識を、SENDプログラム派遣予定者以外の学生も履修する機会をつくるため、全学(学部・大学院共)に対して科目を提供するべく、調整を行っている。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

夏季に語学研修プログラムを実施するほか、サマープログラム形式の短期SEND、交換留学形式の長期SEND、論文の共同指導などにより、学生をアジア諸国や欧州に派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

サマースクールや日本語研修を開講する。また、協定校から協定に基づく交換留学生を受け入れるほか、国際連携研究指導を実施する。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	16	26	36	40	40
学生の受入	20	30	35	35	35

注)申請時の計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

① 学生の海外派遣を促進するための環境整備

海外留学に必要な知識・能力を持たせるため、英語、アジア言語を習得する複言語教育を実施し、英語によるアジア地域に関する授業を開講する。また、就職セミナーを開催するなどして、海外留学の経験が就職活動に活かせるように支援する。

② 留学生の受入を促進するための環境整備

コンソーシアムの大学との合同授業、サマースクール、派遣教員による授業、学生国際ワークショップなど、留学の契機となる機会を設ける。産業の現場でのフィールドワーク、インターンシップなど就職につながるプログラムを実施する。その他、英語授業・日本語教育の拡充、「アジアと日本の社会と文化」に関する授業の提供、留学生の相談受付、宿舎への入居支援など。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 成果の広範なフィードバック

本事業により開発した教育プログラムを、英語教科書、ビデオ教材、オープンコースウェアなどの形で広く公開し、国内外の大学、学校、企業などでの利用に供する。コンソーシアムの大学と共に、学生が成果を英語で発表する国際ワークショップを毎年開催し、国内他大学の学生にも参加を呼びかける。ビジネスミーティングを毎年開催し、1年間の事業の成果を報告する。